

看護しずおか[🌿]

特集

元気に駆けめぐれ!! 戊年生まれ P6・7

お仕事拝見

患者、家族、職員が元気になれるチーム運営を目指して P4・5
～認知症ケアチームで活躍する精神科認定看護師～

先人に聞く 忘れられない看護

行政保健師のあるべき姿を求めて(最終回) P3

シリーズ 活躍する認定看護師

摂食・嚥下障害看護認定看護師 P8

平成29年度

Vol.5



会員数 20,306名 (平成30年1月1日 現在)

- 保健師…533名 ●看護師…18,165名
- 助産師…766名 ●准看護師…842名

「今年もこども達を笑顔にするぞ!!」

静岡県立こども病院で活躍する
ファシリテッドッグのヨギとハンドラーの鈴木さん
(認定NPO法人シャイン・オン・キッズ所属 <http://sokids.org/ja/>)



公益社団法人 静岡県看護協会

静岡県看護協会

検索

<http://www.shizuoka-na.jp>

【静岡県看護協会】
お気軽にご利用下さい。



平成30年新年あいさつ

会長 渡邊昌子

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆さまをはじめ、日頃よりご支援を賜っております多くの皆さまの本会事業へのご理解とご協力、ご支援に厚く御礼申し上げます。

本年は会長就任後、はじめて迎える年となりました。心新たに持てる力を最大限に発揮し、本会事業の充実と発展に尽力してまいります。

さて、周知のとおり、わが国の社会情勢や医療を取り巻く環境の急激な変化は、看護職においても、これまでと同様とはいかない変革の時代を迎えています。このような中、看護職の力を発揮するためには、本会として看護の質向上と勤務環境改善に継続的に取り組み、皆さまが自信とやる気、そして誇りをもって看護ができるよう支援することであると思っています。

看護の質向上の事業として、毎年静岡県看護学会を開催しています。発表者の皆さまが研究というプロセスを通し、手にした看護を語ることで参加者それぞれが思考し、共有を積み重ねることにより、新たな看護の価値の創造へとつながっています。また9月には、ここ静岡で日本看護協会と共催の日本看護学会「慢性期看護」を開催いたします。これらを成功裏に終わらせ、益々看護の質が向上し、看護職の活躍の場が拡大することを願っています。

昨年より継続中の本会の地域包括ケア看護職連携モデル事業（モデル事業と略）は、東部、中部、西部の5か所で、また日看協のモデル事業である認知症は西部1か所で、地域の特性を生かした取り組みをしています。嬉しいことに看護職に加え行政事務、社会福祉士など多くの職種が連携し、課題に対し多角的で革新的な意見交換がされ、「時々入院、ほぼ在宅」の実現が叶う力強さで事業展開をしています。心強い限りです。

更なる推進にあたり、多職種との看護職連携のもと、地域住民が主体的に自ら健康の保持増進のために何をするかを考え、行動できるような教育・支援が必要です。「住み慣れた社会でその人らしく最期まで暮らせる」ことを県民の皆さまにご理解いただき、多くの地域でのシステム化を目指し、継続して取り組んでまいります。

本年はこれらに加え、看護基礎教育の充実や特定行為研修の推進にも注力いたします。今後も、皆さまからの声を大切に事業展開してまいります。引き続き、ご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。



平成29年度 第4回定時理事会報告

■ 開催日時 平成29年12月19日(火) 14:00～16:00

■ 会 場 静岡県看護協会第1会議室

出席理事：19名、欠席理事3名

定款第38条に基づき、定足数12名を満たしていることを確認

出席監事：3名、欠席監事なし

1.協議事項（すべての事項について承認される）

- ①平成30年度 静岡県看護協会 事業計画・重点事項(案)
- ②平成30年度 教育計画(案)
- ③平成30年度 日本看護協会名誉会員候補者の推薦について

2.報告事項

- ①会員入会の申請状況
- ②平成30年度日本看護協会会長表彰候補者の推薦について
- ③平成30年度秋の叙勲・褒章候補者の推薦について
- ④平成29年度自民党県連・厚生問題対策連絡協議会への要望事項
- ⑤平成28年度静岡県病院看護職員の退職状況調査結果
- ⑥平成30年度行事計画

県知事訪問



平成30年1月9日(火)に渡邊会長をはじめ、柏崎専務、鈴木常務、牧野常務、河井ナースセンター所長、村松事務局長が年始の挨拶に県庁を訪れました。



看護の流れを肌で感じてみよう(平成31年度日本看護協会代議員及び予備代議員募集)

代議員10名と予備代議員21名を募集します。平成31年度日本看護協会総会の開催日程及び会場は日本看護協会ニュース2月号で公示されます。全日程への参加ができる会員の方に限ります。看護協会の事業に参画するチャンスです。積極的に応募してください。

応募期間：平成30年2月1日(木)～平成30年2月23日(金)

応募要領：往復はがき下記事項を記入し、静岡県看護協会へ送ってください。

記載事項：①代議員か予備代議員の別 ②氏名 ③年齢 ④職種 ⑤勤務先 ⑥連絡先住所(自宅または勤務先)宛
宛 先：〒422-8067 静岡市駿河区南町14番25号エスパティオ3階 公益社団法人静岡県看護協会 選挙管理委員会 宛



先人に聞く 忘れられない看護

行政保健師のあるべき姿を求めて

平成29年度 Vol.4に引き続き平澤ヤヨイさんのインタビューをお届けします。



平澤ヤヨイさん

在宅介護は24時間勤務

看護協会の仕事を辞めてから、夫は2年続けて脳卒中の再発作で倒れ、在宅介護生活に入った。在宅で介護をするということは、24時間勤務と同じだということを実際介護者になって強く感じた。最後の2年位は自分の身体がダメになるかと思うくらいすごく大変だった。平成25年に夫を看送った。今は長男家族と暮らしている。

ボランティアと楽しい時間

地域のふれあいサロンにボランティアとして、月2回血圧測定のお手伝いに行っている。15年位やっているのだから来る人も顔なじみで一緒に年を取っている感じ。また、近所のご夫婦がやっている食事提供や読み聞かせに参加したり、週1回1時間半位の体操教室に参加したり、昔の保健師仲間5人で月1回定期的に集まって食事をしながらおしゃべりして楽しい時間を過ごしている。

自宅で、在職中に買い集めた美術関係の本や全集など大きな本を一人で眺めたり読んだりしながらのんびりしている。

豊かな人間性と幅広い視野をもって!

地域保健活動の第一線を担う保健師の仕事は、あらゆる職種の人々と整合性を持たせながら、なおかつあらゆる階層の人を相手に幅広い活動が要求される。従って保健師としての技量が望まれることは言うまでもない。しかし、それ以前に、“豊かな人間性と幅広い視野”が求められると思う。単なる保健師という角度からだけでなく、公務員として行政で働く保健師として何をやるべきかしっかり見極め、実践できる能力を身につけていってほしいと思う。

仕事に対して、相手を大事に思い謙虚に話を聞き、前向きの姿勢で一生懸命やり抜く。良い悪いは別にしてどんな所からでも学べる精神をもち、いい上司や仲間巡り合えたら、この人は何を考えて仕事をしているのか見抜く力をつけることが大事だと思う。

「保健師さん!住民に見える活動をして下さいね」



大好きな美術全集を前にした平澤さん

お仕事拝見

第15回〈前編〉

看護の知識や資格をいろいろな分野で生かしながら、
第一線で活躍している方々のお仕事をちょっと拝見してみます。



患者、家族、職員が 元気になれるチーム運営を目指して

～ 認知症ケアチームで活躍する 精神科認定看護師～

interview

高度な急性期病院である静岡県立総合病院において、認知症ケアチーム専任看護師として、患者を始め、家族や職員を支援している精神科認定看護師 垣田宜邦さんにお話を伺いました。



静岡県立総合病院
精神科認定看護師
垣田 宜邦 さん

● 認知症ケアチーム発足の経緯

高齢化が進む中、2025年に認知症患者が約700万人となり、静岡県も21万人を超える見通しである。当院の入院患者も平成28年度は62%が65歳以上で、認知機能障害を抱える患者が増加している。そして平成28年度の診療報酬改定でも、認知症ケアチームの立ち上げが必須となった。そこで当院でも、認知症患者が安心・安全に急性期医療を受けることができる体制を整備する必要があると考え、認知症ケアチームを立ち上げた。



静岡県立総合病院

● 認知症ケアチームの発足

当院の認知症ケアチームは医師・看護師・社会福祉士・薬剤師・作業療法士・言語療法士・医事課・総務課など20名の多職種で構成され、2016年6月より活動を開始した。

認知症ケアチームがより有効な活動を目指すため、実際にその活動をしている磐田市立総合病院に多職種で見学した。職種により視点は様々であり、多職種で各自の動きを直接学べた事は大変参考になった。そして当院での認知症ケアチームDST (Dementia support team) の目指すものは、1) 認知機能障害を抱える患者の支援

2) 認知機能障害によって対応に苦慮している支援者への支援と明確に示し、チームの体制づくりを開始した。チーム活動の経緯は以下のように進めた。

2016年6月 チーム発足

9月 多職種による病院見学

10月 運用手順作成

12月 1病棟の試験運用

2017年1月 マニュアル作成

1～3月 3病棟でDST介入開始

5月 院内入院部署にリンクナース配置

6月 チーム活用に関する研修会開催
システム運用に関する研修会開催

7月 全入院部署へDST介入範囲を拡大

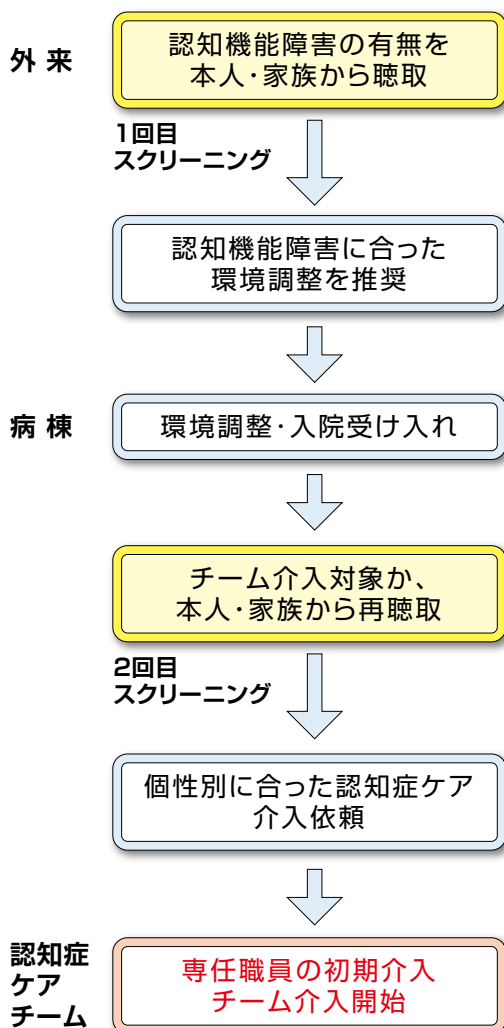
8月 認知症の理解を深める研修会開催

まずはチームメンバー所属病棟での試験運用を経て認知症ケアの活動内容を検討し、徐々に全部署へ認知症ケアチーム活動を拡大した。導入時は現場の職員に当院での認知症ケアチームの目的と認知症ケアを理解してもらうと共に、運用の手順を周知した。マニュアルは必要に応じて手順を追加したり、Q&A事項として事例を少しずつまとめて還元した。

チーム介入の実際

認知症の心理・行動症状やせん妄を最小化するため患者の入院からチーム介入までの流れをフローシートで作成した(図1)。はじめに外来看護師が入院時に1回目のスクリーニングによって患者の認知機能を評価し、患者の認知機能に合った環境調整を病棟へ依頼。病棟看護師は患者の認知機能に合わせた療養環境で患者を受け入れ2回目のスクリーニングを行い、認知症ケアチーム介入が必要な

図1) チーム介入のフローシート

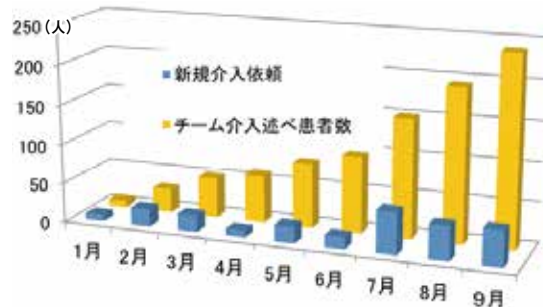


患者である場合は、個別性のある認知症ケア対策を立案し、チーム介入依頼をする。認知症ケアチームの専任職員が依頼内容を確認し患者のもとへうかがい初期介入する。対象者の認知機能に合わせたケアが立案されているか評価し、チーム介入を開始する。その後は毎週患者の病状とケアを評価し、容態の改善や意識レベルの悪化、または退院により介入を終了する。

現在、認知症ケアチーム医療部会メンバー20名、看護師認知症ケア委員会のリンクナース24名と共に日々のケアを行っている。毎週平均30～40名程の対象者に対し、個別介入やチーム回診で支援している(図2 認知症ケアチーム介入状況)。

介入内容は、約6割以上がせん妄に関する相談を受けている。専任看護師は必要性に応じてせん妄スケール、認知機能の検査や入院前の意識レベルの変化を様々なツールを用いて調べる。MMSEによる認知機能の評価、IADLやFASTにより日常生活自立度の分析を行う。分析結果をもとに個別介入やチーム回診で患者訪問を行い、各部署に認知症ケアのポイント等を提案している。

図2) 認知症ケアチームの介入状況



チーム介入の利点

チーム介入の利点はせん妄を含む「認知症ケア」についてチームメンバーにより多角的な判断の上で提案できるところである。チームカンファレンスでは病状と主治医の治療方針をもとに、見当識障害の原因、生活背景、現在の認知機能、患者自身の思い、家族の思い、看護師がケアで困っている事などから意見交換をする。専任看護師からは認知機能に合わせたケアの方法、薬剤師は薬物療法、言語療法士や作業療法士からはコミュニケーションや機能回復に関する方法、社会福祉士からは福祉に関する情報提供、医師からは治療上の助言など、専門領域から提案する。また病状によっては脳卒中リハビリテーション看護認定看護師、緩和ケアチーム、精神科医師など、専門職に相談を勧める場合もある。

VOL.6に続く



特集 戌年め集まれ!



2018



元気に駆けめぐれ!! 戌年生まれ

平成30年は、戌年です。今回は戌年生まれの方々に、頑張りたいこと、行ってみたい所、大切にしている看護の3つのテーマから一つを選んでもらい、ワンダフルな抱負を寄せてもらいました。



「継続は力なり」

静岡医療センター 神戸 心

私は集中治療に勤務して来年度で3年目になります。私は物事を継続することが苦手なので、来年度は自分の目標に向けて努力を継続していきたいと考えています。また、患者に必要な看護が何かを考え学習を重ねていきたいと思っています。また、私生活ではアクティブに過ごしリフレッシュする時間をたくさん作ってきたいです。



「看護師としての飛躍の年に」

伊東市民病院 木村 友美

4人の子育てに追われながら看護師となり今年で6年目を迎えます。多忙ながらも、様々な面で学ぶことは多く、それが楽しくもあります。忙しい母をみてか、子供達は自主性が育ち、その頑張りに感謝させられます。仕事と家庭の両立はもちろん、今年は看護師として主体性を持って行動できるよう努力していきたいと思っています。



「仕事と家庭の両立を」

有隣厚生会富士病院 中村 江莉

私が頑張りたいことは、仕事と家庭の両立です。

変則的な勤務ですが、夫の理解・協力があるからこそ仕事を頑張れていると思います。両立していくためにも時間と気持ちに余裕を持てるようになり、充実した家庭生活、仕事ができるようこれからも頑張りたいです。



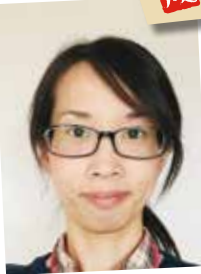
HAPPY NEW YEAR
頑張りたいこと

戌

「忙しい時こそ、一呼吸」

藤枝平成記念病院 杉本 麻実

私は、今2人の子育てをしながら仕事をしています。家に帰ってから時間に追われて、自分に余裕がなく、つい子供達に怒ってしまう事があります。仕事でも、忙しくなると口調がきつくなってしまったり、あとで後悔する事があります。わかっていてもなかなか出来ないのですが「忙しい時こそ、一呼吸」が、家庭でも仕事でも実践できるように、今年は頑張りたいと思います。



「ワンステップ上の看護力をつけたい」

浜松労災病院 松永 歩美

熊本から浜松に来て2年が経とうとしています。環境にも慣れ、一人ひとりの患者様に寄り添い、不安の緩和に心がけて日々頑張っています。昨年は看護診断について学び、理解を深めました。今年はその学びを病棟で共有し、看護診断を含め看護過程の展開から自分の看護を振り返り看護力向上に努めます。



「プリセプターとして」

天竜病院 植木 千晶

私は、重症心身障害児(者)病棟に勤務しています。今年で3年目となり、プリセプターとして新人のフォローを主体的にすることになります。重心の看護は難しく、まだ分からないことも多いですが、プリセプティと共に学び、プリセプティが笑顔で仕事ができるようサポートしていきたいと思っています。



「子どもの卒業記念にアメリカへ」

静岡市立清水病院 望月 泰子

看護師になり初めての海外旅行が、アメリカのディズニーランドでした。子供の小学校卒業時、また行きたいと思いましたが、望月の第2子が誕生し行けませんでした。深夜入りの時「ママ行かないで」と幼い頃、玄関まで泣いて追いかけて来た上の子ども就職が決まり、家族で旅行する機会が減るので、卒業記念にアメリカへ行きたいです。



「西郷どんの故郷へ」

静岡県立こども病院 佐藤 衣里

私の働く病棟には、鹿児島出身の後輩看護師が2人います。元気よく、看護を楽しむことのできる彼女たちにいつも励まされています。そして、帰省のたびに、さつまあげや西郷どんグッズなどのお土産買ってきてくれ、鹿児島への憧れは高まるばかりです。後輩の実家「おやど 花みずき」に宿泊し温泉と焼酎を楽しむことが今年の目標です！



HAPPY NEW YEAR
行ってみたい所
成

「息子と一緒に富士登山」

静岡赤十字病院 向島 郁美

結婚を機に静岡で暮らし始めて今年で10年になります。他県出身の私には、静岡といえば富士山!! というイメージがあります。がまだ登ったことがありません。そんな話をしていると、10歳の息子も富士山に登ってみたいというようになりました。今年は息子と一緒に富士山へ登り、仕事でもまだ見ぬ山に挑戦していきたいです。



「大自然の屋久島へ!」

市立御前崎総合病院 森下 友佳子

私が以前より「一度は行ってみたい」と思っている所は、世界自然遺産の屋久島です。縄文杉を見るのが一番の目的ですが、ダイビングやシュノーケリングなどのアクティビティも体験したいです。普段、仕事ばかりなので、大自然の中、マイナスイオンを思いっきり浴びて、リフレッシュしたいです。



「患者様のところに足を運び続けたい」

聖隷沼津病院 池谷 淑美

私が勤めている外科病棟には周術期から術後補助化学療法を続ける患者様、終末期を迎える患者様が入院しています。どの患者様も治療や闘病に対して不安や緊張、恐怖心をもって入院してきます。私が大切にしている看護は、そのような患者様の心身の苦痛や、不安な思いに寄り添う事です。患者様の緊張や不安が少しでも軽減できるよう訴えに耳を傾ける事、患者様とのコミュニケーションを大切にしています。

これから看護師経験を重ねていく中で、初心を忘れず患者様の所へ、成年だけに、元気に足を運び続けたいと思います。



「笑顔の看護を大切に」

遠州病院 西山 理紗子

大切にしている看護は、笑顔の看護です。急変や緊急入院などの時に笑顔でいられる訳ではありません。日々の仕事で帰宅時間が遅くなることもあります。3人の子供と触れ合って笑顔を見ることで1日の疲れをリセットします。笑顔は、底知れぬ力を発揮してくれます。病棟スタッフ、コメディカルの方々にも笑顔忘れずに接していきたいです。



HAPPY NEW YEAR
大事にしている
看護
成

「患者様とのコミュニケーション」

浜松医科大学医学部附属病院 一木 仁美

私が大切にしている看護は、患者様とのコミュニケーションです。日々忙しい業務の中でも、患者様と話をする時間をつくるようにしています。目線の高さやタッチングなど非言語的方法を使用しながら、目と目をあわせて会話することで患者様との距離を縮めることができます。信頼関係を築くことで患者様に安心感を与えられるようにしたいです。



「寄り添える助産師に」

浜松医療センター 森 三和子

私は2回の出産をきっかけに、助産師になりました。偶然にも2回とも同じ助産師に担当していただき、なんて素敵な仕事なんだろうと衝撃を受けたことを今でも覚えています。痛みや辛さを、傍にいてくれるだけで吸い取ってくれるような感覚を受け、私もこんな魔法の手を持つ助産師になりたいと思いました。妊娠出産は、本人や家族のその後の人生に大きな変化をもたらす出来事です。お母さんと家族の気持ちに共感し、そっと寄り添いながら、新しい命を迎える家族が輝いていけるお手伝いをしていきたいと思っています。



シリーズ 活躍する認定看護師 摂食・嚥下障害看護認定看護師 編

静岡県には400人余りの認定看護師がいます。今回は摂食・嚥下障害看護認定看護師のうち4人を紹介します。



早瀬 直子

国際医療福祉大学熱海病院

以前、所属施設で窒息事故を経験し、安全な食事について考えるようになりました。また日々、患者さんやご家族と関わる中で「誤嚥してもいいから食べたい、食べさせてあげたい」という言葉が多く聞かれ、専門的な知識と技術を持って、この気持ちを叶えたいと思い認定看護師を目指しました。

現在は専従として院内の患者さんへ「食べるための口作り・体作り」を行っています。「おいしい、うれしい」という言葉と笑顔が私の支えです。1人でも多くの患者さんに食べる楽しみ、幸せを感じていただけるよう努力していきたいと思っています。



大西 真倫

静岡県立静岡がんセンター

私は、終末期のがん患者さんと関わっていく中で「最期まで好きなものを食べたい」と話される患者さんに関わるが多々ありました。食べることを支援すること、そしてそれを司る機能について専門的な知識と経験を有し、摂食・嚥下障害看護のスペシャリストとして看護を行うことの意義・意味を強く感じました。

人間の基本的欲求である食。がん患者さんが最期まで、安全かつ安楽に食すること、それを支援することは、がん患者のQOLにおいて大きな要因であることを確信し、認定看護師を目指しました。これからも多くの患者さんのためにST、管理栄養士と連携しながら「その人らしく食べられること」を追求し、自己研鑽をしていきたいと考えています。



望月 智子

富士宮市立病院

私は、入院中に嚥下機能が低下し、口から食べることが困難になってしまった人に会いました。「食べたい」「食べさせてあげたい」と強く希望される患者さんや家族の思いに応えられる関わりができませんでした。ある研修で、摂食・嚥下障害看護認定看護師の存在を知り、根拠に基づいた看護ケアにより食べ続けられることを学び感銘を受けました。

患者さんの食べる可能性を広げたいと思い、摂食・嚥下障害看護認定看護師を目指しました。

現在は、病棟で勤務をしながらスタッフへの教育・指導や他職種と協働し活動しています。患者さんがスプーンを口にして飲み込んだ時のうれしそうな様子を目の当たりにして、患者さんから力をいただいています。



田中 直美

浜松市リハビリテーション病院

私は、摂食嚥下リハビリによって経口摂取が可能となった患者さんに出会い、食支援のすばらしさを実感しました。摂食嚥下障害看護について学び「口から食べる」支援をしたいと思い、認定看護師を目指しました。

当院は、専門的な摂食嚥下リハビリを行う施設で、私は外来での患者家族支援・指導を中心に活動しています。高

齢者の誤嚥性肺炎は、予防的な関わりが重要です。一方で「最期まで口から食べたい」という想いを叶えるべく、誤嚥防止術など選択肢の幅も広がっています。摂食・嚥下障害看護認定看護師として、胃瘻の選択も含め、患者さん自身が「どう生きたいか?」を大切に、患者の意思決定支援に関わっています。

読者の
広場
~Vol.4の感想・意見~

がんばる看護職夫婦のコーナーを
みて励まされました!

働きながら子育ても頑張っている
ママパパをみて励まされます

地域連携室の退院調整看護師の業務紹介など地域連携
についてのコーナーも興味深いと思います。

1

看護師のクリニカルラダー ー自施設のクリニカルラダーを考えるー

教育委員長 鈴木 美恵子

「看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）」（以下JNAラダー）が、あらゆる場における全ての看護師に共通する看護実践能力の指標として、2016年5月に公表されました。これを受けて、各施設ではJNAラダーの学習や導入の検討などが行われているのではないのでしょうか。

静岡県看護協会では、全国に先駆けて開発の中心メンバーである宇都宮明美先生を講師として「JNAラダーの理解と自施設のラダーを考えること」を目的に研修会を開催しました。今回は、中小規模病院、高齢者施設、訪問看護ステーション、介護施設の看護部長や教育担当者などを対象に5月30日、11月28日に開催し49名が参加しました。参加動機はラダーが無く作成したい、既存のラダーの見直しを図りたいなど様々でした。

1回目は、JNAラダーの目的とレベルごとの実践能力の核となる4つの力「ニーズをとらえる力」「ケアする力」「協働する力」「意思決定を支える力」について理解を深めました。それを基に自施設の理念や組織の特徴を踏まえて、ラダーレベル別に行動目標の設定に取り組みました。研修後約4ヶ月間で、宇都宮先生の支援を受けて自施設のラダーの行動目標を作成しました。

2回目は参加施設から、代表して4つのラダー（協会立訪問看護ステーション共通、医療療養型病院、回復期病院、一般病院）の作成過程や内容を共有することで理解を深めました。次にレベルごとの学習内容の目標・OJTの視点等を理解し、その作成を行いました。参加者の9割以上が活用できると評価していました。今後、それぞれの施設がラダーを完成し、教育に反映することを期待できる研修でした。



グループワークを行う参加者

2

地域包括ケア時代の看護管理者の役割 ～看護の独自性を大切にした管理とは～

認定看護管理者教育運営委員長 津島 準子

静岡県看護協会は平成22年度より認定看護管理者養成教育課程サードレベルを開講しているが、現在、総勢100名の認定看護管理者が活躍している。

今わが国では、地域包括ケア時代に向けた激動の中、看護の独自性を発揮し、人々の多様なニーズに応える看護者が求められている。そこで、委員会は最前線で活躍する副看護部長以上の看護管理者及び認定看護管理者を対象に「地域包括ケア時代の看護管理者の役割～看護の独自性を大切にした管理とは～」と題し、12月7日に研修会を開催した。

1部の基調講演では、聖隷クリストファー大学看護学部教授の川村佐和子先生による「地域包括ケア時代の看護管理者の役割 ～看護の役割を大切にした管理とは～」を、2部は聖隷クリストファー大学看護学部教授の鶴田恵子先生

生による「地域包括ケア時代の看護の独自性を考える」の講演会と「看護の独自性を大切にした看護管理とは」のグループワーク、最後に両講師を交えて全体討議を実施した。

当日は病院及び介護施設等の看護管理者69名の参加があり、活発な意見交換が行われた。法律と歴史的経緯を踏まえ、看護業務は「療養生活支援の専門家としての確かな判断と看護技術を提供すること」であると再確認し、その上で、地域包括における新たな医療の在り方を踏まえた看護職の働き方について思考を巡らせた。全体討議では看護管理者としての課題の整理、共有化、解決へと有意義なディスカッションが行われた。参加者からは、看護職が看護の独自性を見失うことなく、倫理観をもって看護を実践するためには、看護管理者の役割がいかに重要であるかを再認識できたという意見が寄せられた。



講演する川村佐和子教授（左）、鶴田恵子教授（右）



グループワークの様子

「訪問看護ステーションの皮膚排泄ケア認定看護師」の地域活動

静岡県看護協会 訪問看護ステーション清水 所長 岡 由美子

第9回地域交流会は、当所の皮膚排泄ケア認定看護師 大川瑞江が講師となり「すぐに使えるスキンケア」と題して開催しました。地域で活躍する訪問介護・訪問入浴・デイサービス・ショートステイ・施設など様々な事業所から45名が参加しました。現場で生かせる知識と技術として、スキンケアの基本的知識の講義とテープやフィルムの剥がし方など演習を交えて行いました。終了後のアンケートから「とても参考になった」「相談できるこ



講師の大川瑞江認定看護師

とも分かり安心した」等の感想が寄せられました。

在宅療養の場合、在宅サービスを複数利用している方が多くいますが、介護者、看護者が統一したケアを提供することは、利用者にとって効果的なケアとなります。当事業所のみならず地域のサービス提供者とケアの知識を共有できたことは、今後様々な問題解決等において、協力できる関係を作る上でもとても良かったと思いました。

現在、大川認定看護師はある事業所の利用者に対して、褥瘡など皮膚に関するトラブルのスペシャリストとして同行訪問し、アドバイスや直接看護ケアの支援を行っています。また、褥瘡やストマのある利用者がデイサービスやショートステイを利用している日には、先方の看護師へケアの指導に出向くなどして連携を図っています。地域包括ケアシステムの中で、利用者に質の高いケアの提供ができるよう、今後も引き続き連携したケアを推進していきたいと考えています。

日本看護協会平成29年度 都道府県看護協会地区支部等における高齢者及び認知症支援のための看護職連携構築モデル事業

第1回 浜松市北区・天竜区 看護・介護職地域連携会議

日 時：平成29年10月21日

参加者：医療機関、行政、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、福祉施設、看護小規模多機能型居宅介護支援事業所、看護大学など

内 容：①浜松市（北区・天竜区）の高齢者の現状／浜松市健康福祉部 保健師
②地域包括支援センターからみた在宅療養／地域包括支援センター細江
③訪問看護ステーションからみた在宅療養／訪問看護ステーション天竜
④高度急性期病院の退院支援／聖隷三方原病院看護相談室

成 果：27事業所、73名の参加があり、行政、病院、地域包括支援センター、訪問看護ステーションからの報告をもとに情報交換のためのグループワークが行われた。参加者からは「地域の医療、介護などの仕事や活動を知ることができて有意義だった」「互いの思いを知ることができ、顔の見える関係をつくることができた」と好評だった。

課 題：情報共有の具体的方法やサマリの検討など、連携のためのツールづくりが必要である。今後、多くの看護職の参加を期待したい。



届出はお済みですか？

看護師等の届出サイト

とどはるん

1,877人 — 届出登録数
602人 — eナースセンター
求職登録数
163人 — 就職した人

平成28年度1年間は
月平均71人、今年度も
12月末までの月平均
は71人が届出登録を
してくださっています。

平成27年10月1日～平成29年12月31日

セカンドキャリアセミナー

開催日11月30日(木) 参加者39人

55歳以上の看護職員を対象に開催。『～輝け!私のセカンドライフ～』のサブタイトルのもと、看護の動向と期待される役割、今後の経済、そして良質な睡眠について幅広い内容の講義がありました。セカンドキャリアについての話題提供のあと、グループワークで活発に意見交換を行いました。



看護職ころごし育成セミナー

開催日11月11日(土) 参加者164人

看護師養成学校へ進学希望の高校1・2年生を対象に、先輩看護師(保健師、助産師、手術室・救急・訪問看護師)が看護の魅力と活躍の場の多様性を伝えました。出席した高校生からは「看護で大事にしていることは」「認定看護師になる方法は」「辛かったことは」など多くの質問が寄せられました。また、2年生は身近な進路としてより真剣な様子が伝わりました。多くの高校生が看護の道に進むことを期待します。



お知らせ

※相談・研修は看護職であればどなたでも受けられます。

(1) 移動相談

県下13のハローワークにナースセンターの就業相談員が出向いて、就業について相談・支援をしています。

時間:午前9時～12時 予約:不要

	下田	御殿場★	富士	沼津★	三島★	清水★	静岡★	焼津	島田★	掛川★	浜松★	磐田★	浜北	細江★
2月	—	—	—	20日	27日	20日	14日	27日	—	5日	14日	—	20日	—
3月	27日	27日	14日	20日	—	—	14日	—	27日	5日	14日	20日	—	20日

★就職相談会を同時開催中

(2) 研修会

会場: 静岡県看護協会会館 電話でお問い合わせください。

名 称	日 程	内 容
再就業準備講習会	2月5日(月)・6(火)・7日(水)	吸引の演習や電子カルテについても学びます。ブランクのある方、是非ご参加ください。
第2回 看護職員介護施設等 再就業研修	2月26日(月)・27日(火)・3月1日(木)	介護施設等での再就業を希望される方向け。介護施設等の看護実践に必要な認知症の基礎知識や摂食・嚥下ケアなどの講義、吸引技術演習、介護施設見学

(3) 「地域でつくる協働開催型再就業相談会」を実施します。職住近在でお仕事をお探しのかた、おいでをお待ちしています。

開催日時	開催会場	開催日時	開催会場
2/10(土) 9:00～12:00	牧之原市細江コミュニティセンター	2/17(土) 10:30～14:30	イオン清水店
2/11(日) 10:30～14:30	御殿場市交流センターふじざくら	2/25(日) 11:30～15:30	遠鉄ホール
2/15(木) 9:30～12:30	藤枝市民会館	3/ 2(金) 10:30～15:00	富士市交流プラザ
2/17(土) 14:00～16:00	伊豆の国市長岡総合会館アクシスカつらぎ	3/ 3(土) 11:00～14:30	静岡県看護協会

(4) 就職活動等で見学、面接に一人で行くのが不安な方はご希望があれば、就業相談員と一緒に同行します。

※詳細は、ホームページをご覧ください。

(公社) 静岡県看護協会 静岡県ナースセンター

本 所: TEL 054-202-1761 FAX 054-202-1762

東部支所: TEL/FAX 055-920-2088 下田相談所(毎週木曜日9:00～16:00): TEL 080-2650-0327

西部支所: TEL/FAX 053-454-4335 天竜相談所(毎週火・金曜日9:00～16:00): TEL 080-2650-0237

悩みは誰かに話しましょう。

話した内容が他の人や職場に
伝わることはありません。お気軽
にご利用ください。

【悩み専用ダイヤル】054-202-1780

看護協会
総務部

2018年度(平成30年度)会費納入をお願いします

(看護職賠償責任保険制度加入や、研修会等会員価格で受講していただくためにも、会費の前納にご協力をお願いします)

口座振替について

会費引き落としは、1月29日(月)です。ご登録口座の残高のご準備を1月26日までにお願いいたします。再振替をいたしませんので、資金不足等で引き落としができなかった場合は、後日ご自宅へ届くコンビニ収納払込票でお支払いください。

施設取りまとめ納入

平成30年1月末を目安に、施設の専用口座へ会費をお振込みください。
施設用WEBで納入対象者を特定し、表示された人数分の会費合計金額をお振込みください。

銀行振込・コンビニ収納

継続のお知らせに同封されていた払込票で、お支払いください。
新規・再加入の方は、書類受理後、ご自宅へ払込票が届きます。届き次第お支払いください。

退会について

次年度の継続をされない方は、「退会届」と会員証の返却をお願いいたします。

退会届書式 静岡県看護協会ホームページ <http://www.shizuoka-na.jp/>

トップページのお知らせ欄「平成30年度(2018年度)の手続きについて」の頁よりダウンロードできます。

送付先: 〒422-8067 静岡市駿河区南町14-25 エスパティオ3階 公益社団法人静岡県看護協会 会員管理担当 宛

お問い合わせ 総務部 054-202-1750

医療安全情報
平成29年度 第5弾

医療安全推進のための取り組み

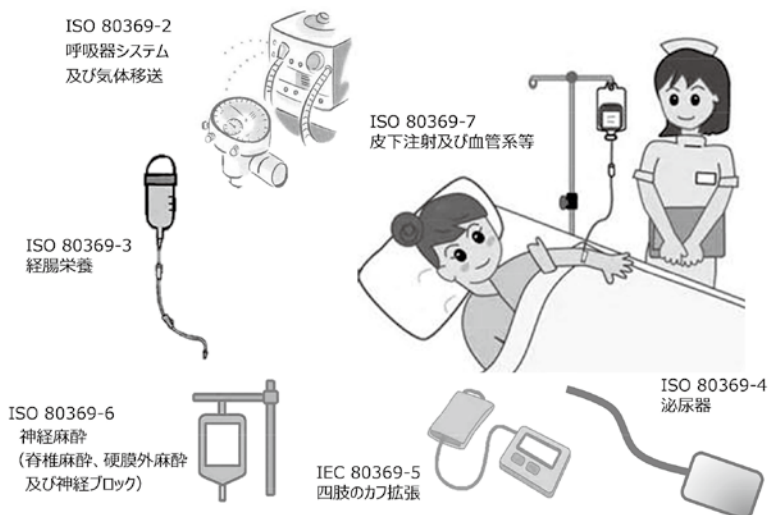
働き続けられる職場づくり推進委員会

～相互接続防止コネクタに係わる国際規格の導入が始まります～ 厚生労働省

コネクタの誤接続による医療事故事例が国内外で報告され、相互接続ができないように国際規格(ISO 80369シリーズ)の制定が進められています。我が国においても、国際規格の導入を推進しています。ベッドサイドで起こりうる接続を6種のアプリケーションに分類し、相互の誤接続を防止する国際規格の制定が進められています。誤接続防止の観点から、既存規格製品と新規格製品を接続するためのコネクタは、原則として、使用しないこと。

※各医療機関は、製造販売業者等からの情報提供を受け、適切な在庫管理・医療安全の確保を行います。

ISO 80369シリーズでは、ベッドサイドで起こりうるコネクタ接続を右図のようにアプリケーションに分類し、医療事故を防止するため、相互の非嵌合性を規定しています。



図提供: 一般社団法人日本医療テクノロジー協会



クイズに答えると、抽選で5名様にクオカードが当たる!

次の4文字熟語の□に入る語を並びかえてひとつの熟語を作ってください。

一 □ □ 心

□ 状 □ 理

答え. □ □

応募方法

葉書又はメールに答えをお書きのうえ、下記にお送り下さい。
正解者の中から、抽選で5名の方にクオカード(1,000円分)を差し上げます。
当選者は「Vol.6」に掲載させていただきます。(ペンネーム可)

右記内容をご記入のうえ、応募してください。
●答え ●氏名 ●所属 ●電話番号 ●〒 ●住所
●看護しずおか感想 ●看護協会へのご意見

お寄せいただいたご意見・ご感想は、看護しずおかに掲載させていただく場合があります。

締め切り 2月23日(金) 消印有効

葉書の場合の宛先

〒422-8067 静岡市駿河区南町14-25
静岡県看護協会 総務部 看護しずおかクイズ係
※はがきが62円に値上りしていますので応募の際はご注意ください。

メールの場合の宛先

メールアドレス
kango@shizuoka-na.jp

当選者

「Vol.4」のクイズの答え: 晩秋

ペンネームイクラ様・登澤佳子様・柴田多美子様
ペンネームモコ様・永島智子様



公益社団法人 静岡県看護協会

〒422-8067 静岡市駿河区南町14-25 エスパティオ3階
TEL.054-202-1750 / FAX.054-202-1751 編集責任者: 渡邊昌子

平成30年1月25日発行